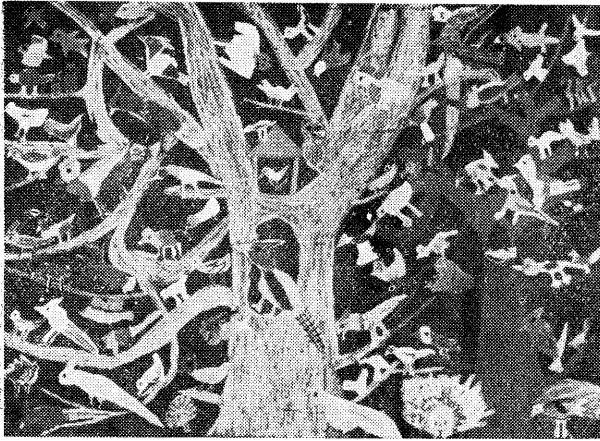


幼児の造形



(小鳥さんの園—集団画)

林 健 造

暖かな陽ざしをうけた河原の斜面に、ぽっかりと雪解けの穴があいていて、そこには、つぶらな猫柳の芽がやわらかな銀色のうぶ毛を輝やかしている。

これを見つけたとき、誰でもがほっと救われたような気持ちで、思わず微笑みにはおれないでしょう。

三月とは、解放と、そして新生の喜びの季節です。

話の窓

I 幼児と「思い出の世界」

教育は、まず教育されるものの実態を充分に知ることが大切です。どんなによいプランをたててもそれが教育される者にとって興味がなく、理

解しにくかったり、また不適當な強制的な手段でおこなわれたりすることは、まったく徒勞であるばかりでなく、大きな不幸です。したがって私どもはまず幼児の心理をよく知っているということ、そしてそれに適応した指導をしていくことが大切です。いまや教育常識となっている以上のようなことについて具体的に實際例からお話ししてみよう。

ある幼稚園の絵画製作のカリキュラムで、三月の単元は、「ひなまつり」「もうすぐ一年生」というので、目標は、春を迎える喜びと入学への希望と抱負とをもたせ、残り少ない幼稚園生活をたのしく過すように皆で工夫しあう。(年長児)ということ、さて絵画では、ひなまつり・先生やお友だち・たのしかった学芸会・たのしかった幼稚園などが挙げられています。

いかにも三月らしい主題であり、たのしかった幼稚園などは、年長組にとっては三年間、あるいは二年間のいろいろな思い出の中から、たのしかった場面を選んで描かせたいと思われるその気持ちもよくわかるのですが、やはりここで問題になることは「たのしかった」という思い出・追憶の形と幼児との関係

でしょう。

いったい幼児は、このような思い出の世界にそれ程のみ力や興味があるのでしょうか。

「……行く年月に、そぞろに来し方をしのび……」

などという世界は、どうしても大人の、しかもロマンス・グレー以後の感覚とびったりするように感じます。

幼児たちの姿をみつめてみる時、そこには、現在の喜びと未来への夢でいっぱいな、びちびちした姿に当面するだけでしょう。

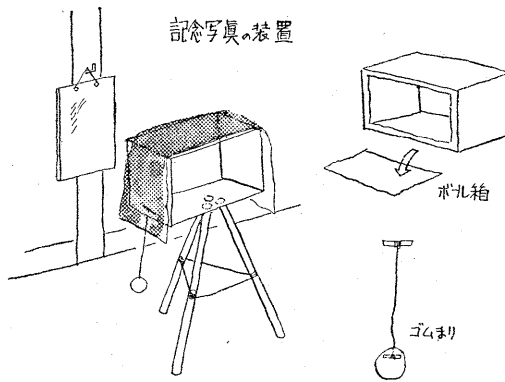
幼児の欲しているものはあくまでうしろ向きの世界ではなく、前向きの世界です。

たとえば運動会などの絵でも、運動会の前(期待)に描いた絵と、その後(思い出)の絵ではその意欲や感動がまるで違うようです。子どもたちは運動会自体の中で、喜びや感動のすべてを惜しみなく発散させてしまっています。思い出はその再生です。このように短かい期間においてすら期待と追憶との表現の差異が表われますが、まして二年、あるいは三年の思い出を拾おうということは妥当とは云えないだろうと思います。もちろん、出来ないなどは申しません。しかし次の話

で述べるようにこのようなことも出来るというるかどうかが問題です。

そこでこんな着想はいかがでしよう。

うまい言葉ではないのですが「記念写真」というのです。つまり自画像を一人一人に描いてもらって、それを全部壁面に貼り、ちょうど卒業の記念写真になぞらえてみようというのです。さてその演出ですが、やや大形の鏡を用意し、その前方に速成の写真機を立ててやります。(図)



子どもたちは、順に一人づつその写真機の前立ち、箱を通して鏡に写つる自分の顔を眺めます。自分の顔を見てよくわかったらゴムまりを握ってシャッターを切ります。あとからあとからお客さんがやってきます。さて写しおえた子は、自分の席に帰って与えられた画用紙に今よく見た自分の顔を描きます。「あ、ぼくお鼻のところ忘れちゃった」

この子のは、写真屋さんが失敗でしたのでお手数でももう一度撮ってもらうことにしましょう。

この記憶の場合の方が現実感があり、生き生きしているではありませんか、しかも子ども達の絵の知的写実の特徴を生かした自然性があり、このような角度で遊びの中に自分の顔についての認識を深めるということと、全体が一人も欠けずに揃わないと卒業記念写真にならないのでみんなが参加するというにも大きな意味があると思います。

II. 子どものつくりかた

「発達段階では十才頃でないといけないなど」といっていますが、集団画は幼稚園でできますよ。私のところなどでは十人位で大きな紙

にけんかもせずにやっていますよ。」という話
がきっかけでした。

なるほどロウエンフェルドは、彼の発達段階
の中で九才から十一才迄を仲間期（ギャン
グ・エージ）と呼んで、本当の協力はこの時
期にならないとできないことを述べていま
す。それにしてもまず発達段階の否定が問題
です。発達段階は、心理学を基盤として数多
くの実験資料の検討の上のうちたてられたも
のです。もちろん、いろいろの条件、個々の
幼児によって多少の違いがあり、必ずしも数
学的に適合するというものではなく、一般的
な傾向を示しているものと思います。したが
って教師は一般的な基準としてこれをマスタ
ーしておくことは大切なことだと思ひます。
科学的な反論でもなくいたずらに否定するこ
とはつつしむべきことです。

幼児の段階は、自己主張自己中心の段階で
あり、したがって集団画も、他人の長所を認
め、よく分業し、その中で自分を生かすとい
う具合にはいかなないので、とかく力強いボス
が一人で描いてしまつて何人かの内気な忘れ
られた子ができるようにするのが普通です。
たとえばできたとしても、教師の大きな抑圧に

よるか、そうでなくとも、誰もが一人でやり
たい、自己主張したい時代でありますのでそ
れがおさえられることから生れる要求不満は
蔽うことができません。

したがって、このような時代の集団画は、
「どうぶつのおやこ」や「小鳥さんの国（写
真）」のように、各人が好きな動物の絵をか
き、これを切りぬいて教師が用意した台紙の
上に貼っていく方法などの方が各人の意欲も
活動も充分に生かされ、且つ、みんなの力
のないときできない効果と喜びが生みだされるこ
ともなる要当な方法と思ひます。

「たとえばね、子どもに酒は飲ませない方が
よいなどというけどね、五才の子どもに飲ま
せることはできるよ。しかも君、酒はすばら
しい栄養価が高いしね。」

という論と先の論は非常に似ていません
か。五才の幼児にも酒は飲ませ方によつては
飲めます。しかしその+に対して何と-の
大きいことか。

このような場合、普通、できるとはいわな
いことが本当だろうと思ひます。

III おしっこ問答

幼児画の評価はむずかしいといわれます。

しかし、よい絵か悪い絵かが解らないと指導
はできません。望ましい絵は、一般に表現意
図が明確で、内容が豊かで、健康で明るく、

誠実感がある絵であるといわれています。そ
の逆が望ましくない絵でこれらもどのような
幼児が望ましいかと一致する見方です。それ
にしても、このような絵については教師が自
分の感覚を通して理解しないことには理屈の
みでは解りません。

それにはよい幼児画を沢山みて評価の感覚
をねることでです。

さて三つ目の話は、次のような二枚の絵が
生んだ問答です。一枚はお部屋に飾つたクリ
スマスツリーがのびのびとかかれ、それを飾
りつけている子どもの表情も生き生きと美し
い色彩で描かれた、まったく創造的な絵でし
た。他の一枚の絵は、クレヨンで乱暴に
ぐるぐるを描きたいわゆるなぐり描き(錯画)
の絵でした。

一体この二枚の絵を比較した場合どちらが
望ましい絵なのかというのです。

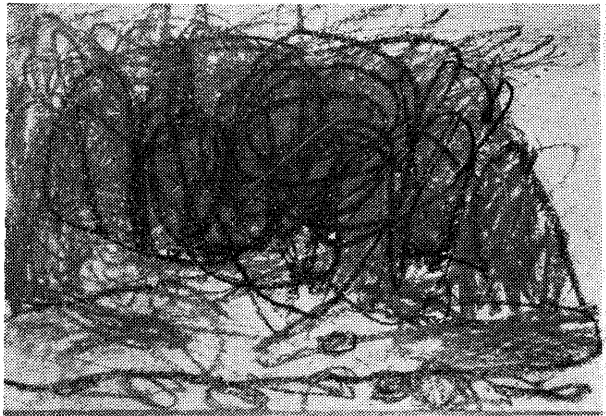
A 「それはいわずとしたこのクリスマス
ツリーですよ。飾付けをする子どもも自体の喜

びが溢れているではありませんか。それにひきかえこちらのぐるぐるの絵は、不健康ですよ、何か家庭の抑圧ですね。アルシュウラーやハットウィックもいっているように、恐怖や不安に包まれた子どもですね。」

B 「うん、子どもの絵がよく心の状態をそのまま表現するので、子どもの絵を通してその心をよみとることができるといふこと、したがってこれを精神衛生に役立てることができるといふことは解るのだが、絵を描くことによつて一応この子は心のもやもやを吐出した訳だろう。そのことによつて子どもが正常な心の安定をとり戻した訳だからこの絵も望ましいではないか。」

A 「子どもが遊戯をしている。一人の子がどうももじもじしていて間違つてばかりいる。そんな時に熟練した先生だと、○子ちゃんお手洗へいってらっしゃいという。排せつして帰つてからはその子も明るい笑顔で踊っているといふことがよくあるでしょう。つまりこの子の絵はおしっこがしたかった絵なのですよ、だからおしっこをたまっている子よりも正常の子の絵の方が望ましいでしょう。」

B 「しかしさてよ、おしっこをしたからよ



くなった……と。ね、絵というものは自己表現だね、心の感動を素直に表現すること、それならばクリスマスの絵も黒丸の絵も自己表現といふ点では同価値の絵、どちらも望ましい絵ではないか。」

A 「……あなたの論は、遊戯をすることとおしっこをすることと同価値だといふ論にな

るね。どうもおかしいな。」

このような場面、確かに二枚の絵のよし、あしを決めることは難かしくなつて実際の幼稚園でもこのような問答がよく行われることでしょう。幼児画の絵の場合、純然と絵画的な評論よりはむしろ今の問答にもあつたように教育的な評価、結果よりも制作の過程に重点をおく評価でなければならぬと思います。

なるほど自己表現といふ点では二枚の絵は同価値のようですが、なぐり描きの方はたんなる衝動行為です。クリスマスの方は創造活動です。前者は手の上のこまの無計画性、後者は自分の表現意図があり、どのように表現していくかの計画性があります。その点においては後者の価値は高いし、望ましい絵といえようと思います。もちろんたぐり描きによつて抑圧を排除したりすることはその子にとつてよかつたことであることは認めますが。

実技の窓

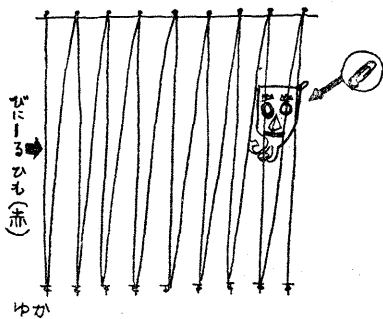
今月は紙を中心にした実技の話をします。

I おもしろいお面（紙彫刻）

これは、今までのような面、つまり、狸さ

紙のお面の展示法

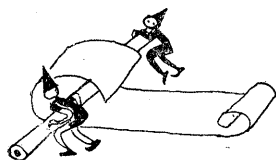
なげし



きつたりちぎったり、折ったり、丸めただけおもしろいお面を作るのです。子どもたちは自由に自分の創造力を発揮して、いろ

んや鬼さんの顔をかいて顔にまぶしたり、頭につけたりするようなものでなく自由に画用紙を

紙工作の基本



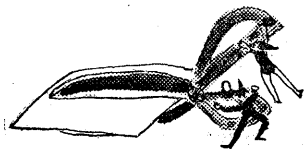
まく



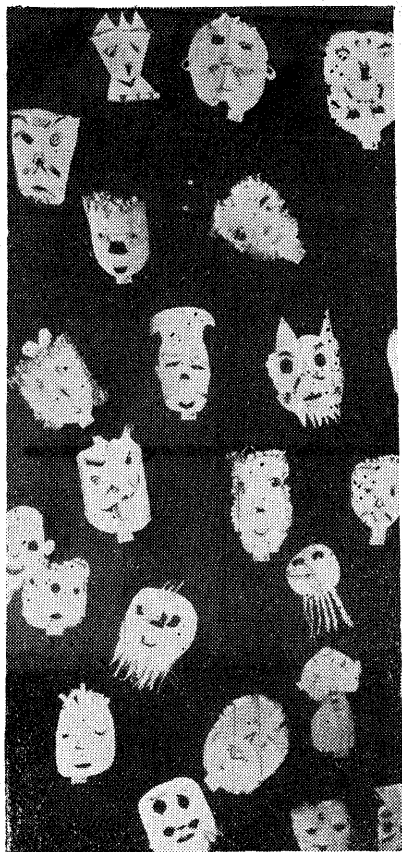
ちぎる



おる



きる



Ⅱ 紙袋のお顔

いろいろと試み、愉快な面が作れます。最後に紙をまくことや折まげると立体的になることの基礎指導をした方がよいと思います。紙の材料機能をこのような遊びの中で自然に体得させていく、いちくりの中で紙の性質や可能性を発見させる点がねらいで、これは将来のデザインや工作とつながる大切な基礎になるものです。

三月は、卒業する年長児たちのために展覧会なども計画にあることでしょう。図のような展示の方法によると、この面は一そうすばらしい効果をあげます。

幼児の創造力の基盤はあの逞ましい想像性です。一つの形をみても、いろいろ、まったく瞬間にすばらしい連想をひらめかします。家から紙袋を持ってきてもらいます。大きい、小さいの、細長い、色のあるの等いろいろの種類があつてよいと思います。この袋をプーッとふくらませて、口をゴム輪でしめます。この袋をみて何の顔みたいかな、と思つたままを絵具で描かせます。できたら針金などにクリップや洗濯ばさみではさみ、みんなの袋の顔を並べてやります。

III ひなまつり

幼稚園のカリキュラムが年中行事にばかり追いかけてられているという姿はあまり望ましいとはいへません。年中行事にはそれ程幼児の欲求や生活と結びつかないものもあり、それにもまして、幼稚園の絵画製作には幼児の造形の芽を養う大切な目的があります。

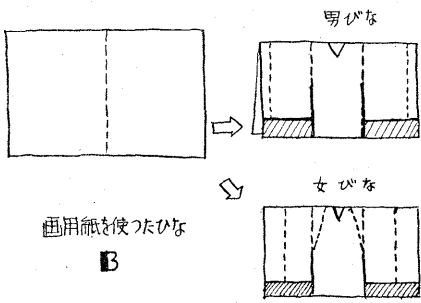
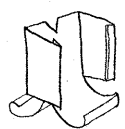
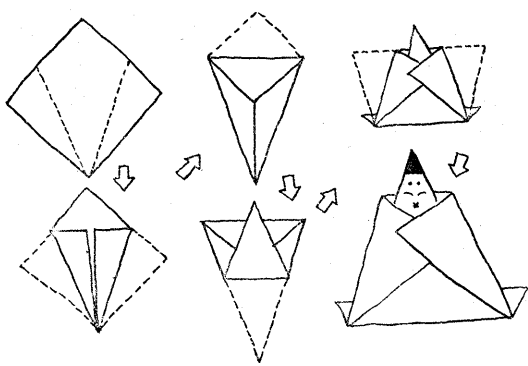
しかし、このひなまつりはその点で幼児の喜びや生活と結びつきしかも造形的な活動の面も多くある方の行事の一つだと思ひます。ひな人形の作り方にはいろいろの方法があります。○卵を利用した卵びな○空びん利用

のびんびな○粘土や紙塑を使用したひな○折紙びな

ここでは、紙びなの簡単なものを取上げてみましょう。

Aは色紙を使用したいわゆる折紙によつたもの、色紙の色を男びなは紫、女びなは桃色などとして選択した方がよい折紙については、いろいろ問題もあるところで、その功

折紙びな A



紙用紙を役つたひな B

利用するといふ意味でこのような折紙びなもよいのではないかと思われまふ。Bは、おもしろいお面と関連のあるもので画用紙の半分を二つ折りにし、きつたり、捲いたりして作る方法です。

罪各々あるにせよ、決定的なこととしては折紙には創造性がないこととでしよう。しかしこの場合、おひなさまはどんな格好でもよいという訳にもいかないし、そう一辺倒に考えずに大きな創造活動の中で折紙なども